

カマキリ (カジカ科)



学名 : *Cottus kazika*

別名 : アユカケ **大きさ** : 20 cm

特徴 : 体側に4本の暗色横帯がある。鰓蓋には4本の棘があり、一番背側の棘は強く上に曲がる。類似種のカジカやウツセミカジカとは、体色やそれらの鰓蓋の棘が1本であることなどから区別できる。

国内の分布 : 神奈川県・秋田県以南の本州、四国、九州。近年は茨城県にも分布。

県内の分布 : 久慈川と那珂川。県北地方の各河川では確認されていない。

本県でのカマキリの生息確認は、1993年3月に久慈川下流域の榊橋地先で体長9.7cmの個体が1尾採捕されたのが初めて。同年5月には河口付近の東海村豊岡地先海域において体長2.8cmの稚魚が採集されている。近年は、稚魚が中心ではあるものの久慈川と那珂川において毎年採集されており、普通種となっている。

県内での生態 : 久慈川では、稚魚は4月頃から採集されるようになり、そのときの大きさは体長約3cm。その頃の河川水温は約10℃以上ある。稚魚はカゲロウ類やユスリ



カ類の幼虫を食べている。

備考 : 本種の分布の北限は、太平洋側では神奈川県とされていた。今では茨城県や栃木県的那珂川でも採集されるようになっており分布域が北に拡大しているものと思われる。環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅱ類。なお、本種の別名“アユカケ”は、アユを鰓の棘に掛け捕らえて食べる姿に由来すると言われている。

主な文献 :

桐原幸一 (1993) 久慈川で初めて記録されたアユカケ. 茨城生物, 15: 56.

中村 誠・杉浦仁治 (2000) 澗沼産魚類の追加. 茨城内水試調査研究報告, 36: 36-40.

根本隆夫・杉浦仁治 (1997) 久慈川におけるカマキリ (アユカケ) の出現について. 茨城内水試調査研究報告, 33: 72-76.